

平成24年度研究成果報告書 <<平成23・24年度教育課程研究指定校事業>>

幼稚園・学校名 (園児, 児童生徒数)	やまぐちけんやまぐちしりつおおうちしようがっこう 山口県山口市立大内小学校 (708)
------------------------	--

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：山口県山口市大内矢田1016番地
 電話番号：083-927-0011
 メールアドレス：oouchi-e@yamaguchi-ygc.ed.jp
 学校のホームページのURL：http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/oouchi-e/

【研究成果のポイント】

- 研究対象教科等：体育（ゲーム・ボール運動，保健）
- 研究のキーワード：
 - 「2年間を見通した指導計画」「確かな単元構想」「もっと楽しい体育学習」
- 研究成果のポイント：
 - 運動の特性や健康のよさを子どもが味わうことができるようにすることを重視し，学習内容や指導・支援，評価の内容・方法，系統性・関連性等を明確にするなど「確かな単元構想」をもって臨むことで，日々の体育授業が意図的・計画的で質の高いものとなった。「楽しさ」については，一時間ごと，単元ごとに，また6年間を通して深まっていくことが確認できた。さらに，子どもが体育学習で感じる様々な楽しさは，運動の特性や健康のよさを味わう楽しさを深める要素となっていることも分かった。

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

子どもが夢中になる，もっと楽しい体育学習
 ～子どもの発達の段階を踏まえた教育課程の創造～

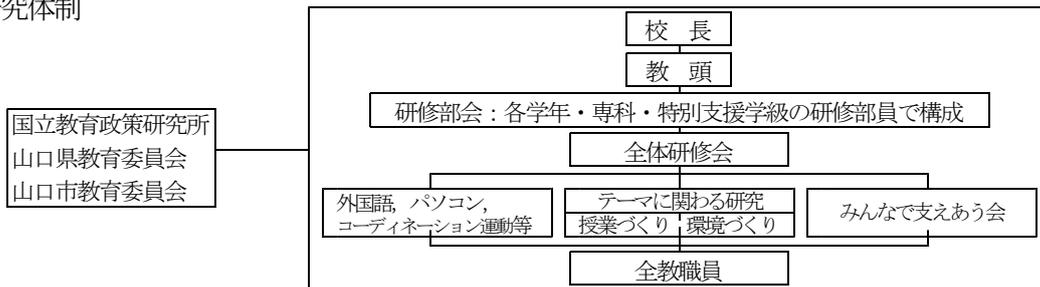
(2) 研究主題設定の理由

本校では，「考える力とやさしい心で，夢に向かってがんばる子ども」という学校教育目標を掲げ，知・徳・体のバランスのとれた生きる力の育成を目指している。健康で望ましい生活習慣の確立を図るため，健康部，体育部，給食部が一体となった取組を進めるとともに，運動好き・遊び好きな子どもを育てることで，体力の向上を図るよう，学校内のあらゆる体育的活動の充実に努めてきたところである。

平成23年度から，国立教育政策研究所の教育課程研究指定校として，上記の研究主題を掲げ，ボール運動系領域及び保健領域を中心に，効果的な教育課程の編成や子どもが熱中し主体的に取り組む授業づくりなどの研究を進めることとした。具体的には，学習指導要領の枠組みである2年間を見通した指導計画の作成と，子どもが夢中になって運動に取り組む，その感動や喜びを互いに伝え合いながら，技能の習得や個人・グループのめあての達成をめざしたり，一人一人が健康や安全に関する課題を認識し，自己の生活に結びつけながら学んだりするような体育科の授業を目指している。授業では，まず，子どもが発達の段階に応じて「運動そのものを持っている楽しさ」に触れたり，「健康・安全であることの大切さやありがたさ」に気付いたりする中で，運動の技能である「動き」や保健の「知識・理解」，思考・判断や態度などの「学び方」を身に付けていくようにする。そして，この「動き」と「学び方」を高めて，より深く運動や健康にアプローチしていくことにより，「運動そのものを持っている楽しさ」を味わったり，「健康・安全であることの大切さやありがたさ」を実感したりする「もっと楽しい体育」を実現できると考える。

このような学習を展開していくことが，体育科の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むこと」「健康の保持増進や体力の向上を図ること」につながると考え，この主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成23年度	1. 新学習指導要領の基本的な考え方や改善事項の共通理解 2. 研究の基本構想, 研究主題, 研究内容, 組織等について協議 3. 研究構想にそった学習の進め方の共通理解 (モデル授業) 4. 全校授業①②③④ (県小体連指定校公開授業) 及び協議 5. 全校授業⑤⑥⑦⑧ (国立教育政策研究所指定校訪問) 及び協議会
平成24年度	1. 研究主題, 研究内容, 組織等の見直しについて協議及びモデル授業の実施 2. 公開授業①②③ (国立教育政策研究所指定校訪問) 及び研究協議, 受指導 3. 公開授業④⑤⑥⑦⑧⑨ (教育課程研究指定校最終発表会) 及び研究協議, 受指導 4. 一人一授業の実施 5. 2年間のまとめと報告書の作成

(5) 具体的な研究内容・方法, 研究を進める上での工夫点等

- ①子どもが味わう楽しさ (運動の特性, 健康・安全のよさ) を明確にする
運動領域では, 「仲間と力を合わせて競争する楽しさ」, 「集団対集団の攻防によって競争する楽しさ」などボール運動系の運動が持ち合わせている特性を, 保健領域では, 「健康・安全のよさ」を味わうことができることを中核に据えて授業を展開することとした。
- ②楽しさの深まりを想定し, 学習内容を関連付ける
楽しさをどう深めるかを想定し, 単元を構想した。ここでは, 「単元構造図」を作成し, 楽しさの深まりに必要な学習内容 (技能や態度, 思考・判断) を明確にした。
- ③指導・支援 (学習過程) と評価内容を考える
子どもが, 学習内容を獲得するために必要な指導・支援や評価の内容・方法等を考えた。それらがより明確になるように, 「指導と評価の計画」を作成した。
- ④授業実践を通して, 楽しさの深まりを検証する
実際に授業実践し, 「楽しさの深まり」につながったかどうかを, 子どもの「自己評価」や「相互評価」を通して検証した。その中で, 学習内容, 指導・支援の内容, 評価内容・方法等の見直しを行い, 次の実践に生かすようにした。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

子どもが味わう楽しさや学習内容, 指導・支援, 評価の内容・方法, 系統性・関連性等を明確にしたことで, ボール運動系の領域では何をねらい, 何を教えるのか, この学年ではどうかなど, 教師がしっかりと把握して指導にあたることができた。保健領域においては, 他教科や特別活動等での「保健指導」との違いをより鮮明することができた。

また, 「おおむね満足できる状況にするための留意点」や「努力を要する子どもへの支援」の明確化は, 「動き」や「学び方」の確実な高まりにつながるとともに, ねらいに応じて評価の視点を明確にした「自己評価」や「相互評価」を行うことで, ゲームの結果だけでなく, そのプロセスを楽しもうとする姿が増えることなども確認することができた。さらに, この「楽しさ」は, 子どもの発達段階に応じて深まっていくこともわかった。本校では, 運動に取り組む子どもの姿によって, 低学年では「ゲームを楽しく行う」, 中学年では「ゲームを楽しむ」, 高学年では「ゲームの楽しさを味わう」と規定した。保健領域においても, 子どもが実践的に学ぶ中で, 「そうだったのか」, 「なるほど」などと確実に内容を理解し, その学習の積み重ねによって, 「健康・安全の大切さやありがたさ」に気付くことから, 実感を伴って感じ取ることへと思いが深まっていくことがわかった。

子どもが体育で味わう「楽しさ」には様々なものがあるが, これらは, 本校が中核に据える「運動の特性に触れる楽しさ」や「健康・安全であることの大切さやありがたさ・喜び」を深める要素となっている。つまり「楽しさの広がり」が「楽しさの深まり」につながっている。この発見は, 本研究の最大の成果である。

一方, 学習内容を確実に身に付け, さらに高めていくための指導や支援の工夫, 指導に生かすための効果的な評価の在り方などが今後の課題である。

(2) 研究成果の意義等

教師が, 子どもが味わう楽しさと指導内容を明確にして, 意図的・計画的に指導にあたることで, 子どもは, しっかりとねらいをもって学習に取り組み, その楽しさを味わい, さらに深めることができる。全国の小学校で, このような体育授業が実現できれば, 「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むこと」「健康の保持増進」「体力の向上を図ること」につながると考える。

(3) 指定期間終了後の取組

本研究の成果と課題をまとめ, 山口県教育委員会等関係機関のホームページに掲載するとともに, 平成25年度に開催される中・四国小学校体育研究大会山口大会において, 本研究の概要とその成果・課題を踏まえた授業を公開し, 県内外に広く普及を図る。